

## 大阪成蹊短期大学

「短期大学における、  
専門職に求められる  
ジェネリックスキルの育成と評価」

大阪成蹊短期大学  
学長

武蔵野 實

[2012年7月14日 河合塾大阪校]



## 1. 大阪成蹊短期大学の特徴と PROG導入の背景

本学は、教学の精神として大学名の由来になっている「桃李不言下自成蹊」、つまり徳のある人を育てるということをあげ、また行動指針として、孔子が一番大事にした言葉「忠恕」をあげています。大学として、社会人を育てるという意味ではこういう規範を持つ事が大事ではないかと思っています。私は「社会人基礎力を高める」というときの基礎は、それら社会性の規範だと思っています。

大阪成蹊短期大学の特徴は全国の中でもめずらしいのですが、5つの学科、11のコースがある総合短期大学として存在していることです。2012年は690人程の学生が入ってきています。全国の短期大学生数からすると100人に一人は大阪成蹊短期大学に入学している、という現状になってきています。

今回PROGテストは1年生全員に対して行ったのですが、伸ばしてやれる力は何だろうか、あるいは補ってやらなければならない力は何か、ということ把握するために計画しました。

発端となりましたのは、2011年に九州で行われたPROGセミナーに本学の教員が参加したことです。その報告を聞き、短期大学でもぜひ学生の実力を知りたい、ということで2011年に小人数ですが2学科に試行版を実施しました。その結果を得て私個人は大変驚かされました。数値で出てくるデータは短期大学の現状そのものを反映しているのかもしれませんが、深刻な事態だと思いました。そこで、2012年は1年生全体に実施したわけです。今日はこの現状についてお話をさせていただきます。

(なお数値データについては、その後基準の見直し

なされています。今回示しているデータは古い基準のもので、今後のデータとの直接比較はできないことをお断りしておきます。)

## 2. PROGテスト受験結果分析

### リテラシー結果分析

リテラシー領域のテスト結果の分布をみると、レベルは大変低いです。確かにレベルは低いのですが、最高レベル・スコア7の学生もおり、多様ですので、短大生がみな同じとは思わないでください。こういう結果を見ると、中学、高校でどのような教育を受けてきたのか心配になります。中等教育の現状をも反映していると感じています。リテラシーの要素別(情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力)の評価を見ますと、全体が低いのですが、その中で構想力が特に低く、数字を扱うような非言語処理能力も格段に低いです。この結果は短大生の学力を反映していると思います。ですから、リテラシーをどれだけ高めていくかが短大の使命の一つだと思っています。

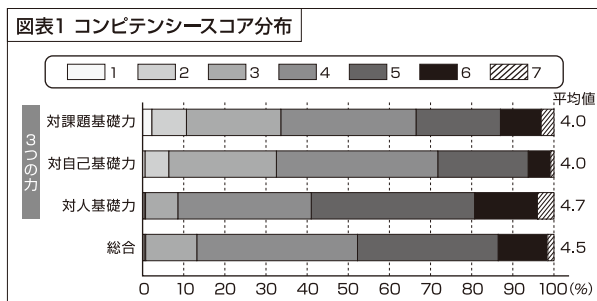
### コンピテンシー結果分析

次にコンピテンシーの評価です。これはコンピテンシーの総合と大分類の3つの能力要素(対課題基礎力、対自己基礎力、対人基礎力)になります(図表1)。大学生の平均値が4.0ですので、結果は当初予想していたより高めでコンピテンシーの力があるかと思いますが、やや高めに出すぎているとも感じています。この中で対人基礎力は高く、短大生をご存知の方は印象として人が良い、他人と協調しやすいという点を感じておられると思います。

大分類をさらに細かく能力要素別にみていきます。コンピテンシーの全体傾向をデータに基づいて話しますと、「対人基礎力」は4.7と高い値で、この中の親和力と統率力は一番高い4.8という値をとっていますし、協働力も高い値です。また、統率力ではスコア7の結果の学生が結構います。ということはそのような学生を中心に力を伸ばしていくこともできるわけで、ここに学生指導の活路もあるかと思っています。

「対自己基礎力」は低く、自信創出力、行動持続力といった点が弱いです。自信が持てない、あるいは頑張る持続力がない、これらは現代の学生の特徴としてみていく必要があると思います。

「対課題基礎力」は弱い点で、中でも課題を発見する力は大変低く出ています。こういうところは学生たちがこれまでを受けた教育を反映している可能性が高いと思います。これらの点を短大のなかでどうやって解決していくかが大きな課題だと考えています。



### 3. コンピテンスの専門職との比較

#### 小学校教諭との比較

短大を卒業して社会人となっている人たちにアンケートを取って、同じテストをし、その差をみる、という構想を立てて検討を行いました。短期大学卒業生に限ることができませんでしたが、小学校の先生(小学校教諭)200人と、幼稚園・保育所の先生をしている(幼稚園教諭・保育士)77人の専門職の方についてそれぞれデータを取り比較をしました。比較の資料数が少ないので誤差は大きいことをご了承ください。

まずは小学校教諭とのコンピテンススコア(総合)分布の比較です(図表2)。上から順に現在小学校教諭で仕事に満足している59人、それから小学校教員全員200人、短大初等教育学専攻1年生76人、短大1年生676人を比較したものです。高満足教員の結果にスコア7が多いのは有意の差で、高いコンピテンスを持っている教員が多いことが特長です。小学校教諭全員200人の結果は分散しています。スコア1、2、3が出てくるのは、個々に考える必要があると思いますが、高満足教員とその他の教員の結果には差があると思いました。

短大初等教育学専攻1年生はそれほど小学校教員全員との差が大きくはありません。満足してはいけませんが伸ばせる力があると思います。ちなみに初等教育学専攻は、小学校の2種免許と幼稚園の2種免許を合わせて取れるコースです。この5年間で、この専攻の卒業生から72人が大阪市の小学校教員になっている実績は、短期大学としては大阪一となります。さらに力を伸ばしてやりたいと思っています。

図表3は、上述のデータにモデル社会人のデータを付加

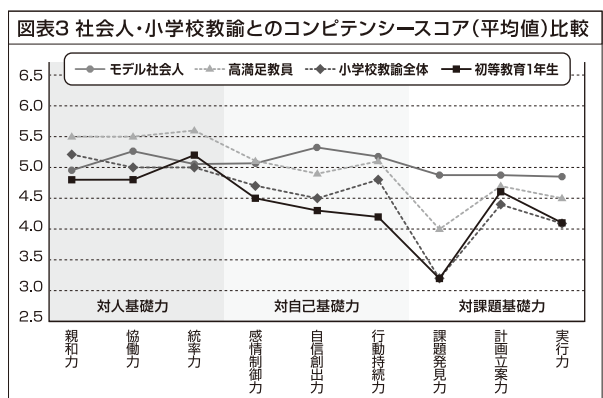
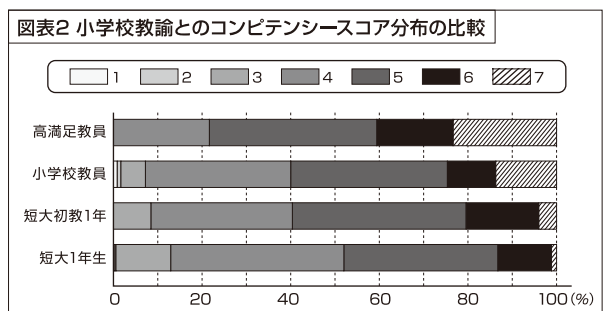
し、コンピテンスの大分類の能力要素である、「対人基礎力」「対自己基礎力」「対課題基礎力」について比較したグラフです。

「対人基礎力」に関しては、高満足教員、小学校教諭全員、短大初等教育学専攻1年生ともモデル社会人との間で最も差が少ないところであり、高満足教員はモデル社会人に勝っています。

「対自己基礎力」に関しては、小学校教諭全員と短大初等教育学専攻1年生で差が表れています。自己をきちんと見つめる力という点は短大生の方が弱いという傾向があると思います。

「対課題基礎力」に関してですが、学校の先生方は意外に低く、民間会社等で必要とされる課題解決能力とはおそらく違うのではないかと思います。先生の相手は生徒であり、学校運営が主ではないからです。特に「課題発見力」が低くなっています。

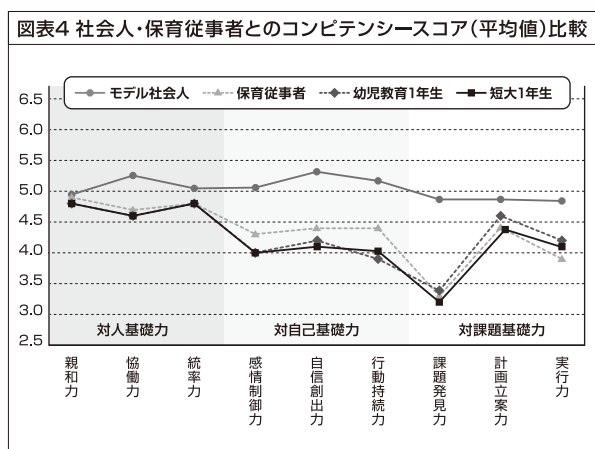
また、3つの能力要素を通して見ると、おもしろいことに高満足教員、小学校教諭、短大初等教育学専攻1年生は全体に平行になっていて、レベルの差はあっても全体の傾向は類似しています。そこで今の学生の力をうまく伸ばしてやれば、高満足教員のレベルへいくかと期待しています。



#### 保育従事者との比較

図表4は、保育従事者、幼児教育学専攻1年生、短大1年生とモデル社会人のコンピテンススコア(中分類)の平均値をグラフにしたものです。保育従事者、幼児教育

学専攻1年生、短大1年生の3者間で比較してもそれほど差はありません。一方、3者をモデル社会人と比較すると、対自己基礎力と対課題基礎力のところでは、大きく差が出ています。特に課題発見力のところが顕著です。



## 4. まとめ

PROGテストによって短期大学の学生の特長が把握できました。

リテラシー、基礎的学力は劣っています。これはなんとかしないといけません。そこで短大生の長所である「対人基礎力」の親和力等を活かした学習への参加を促していきたい。また、「社会人基礎力」にとって大切なのが「自信創出力」「行動持続力」です。これは身体的健康だとか感性などと関係してくることだと思いますが、そういったものをまず涵養していく必要があります。それからリテラシーとともに「課題発見力」を伸ばさないといけません。

ところで、PROGテストの結果は個々人のデータです。それを集計して今回のように学生全体の評価をしようとするには一定の意味があるとは思いますが、より大切な事で実際にこれが役立つのは、個々の学生が自らの特長を知ることであり、そのことがPROGテストの最大の利点だと思っています。

自分はこういうところが足りないかもしれない、と思っていたことが数値として出てくる、あるいは、こんなところは特長なのだという点を自覚してもらえ、その自覚の上に学生が2年間の学びを深めて卒業し、社会人となっていくことにコミットできればPROGの意味は大きいのではないかと思っています。個々の学生の特長を自らが自覚して学習し、一方で、教員がそれを把握して指導できるのが利点だと考えます。